



日本医療機能評価機構認定

さくら病院の理念

健·康·通·信

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。 1/2







院長 江頭 省吾

毎日暑い日が続きますが皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

私、本年4月1日よりさくら病院理事長・院長である江頭啓介より、院長職を引き継ぐこと になりました。これまで副院長として多くの皆様に支えられて業務に携わってまいりました が、今後は院長として業務に邁進してゆく所存であります。

さて、さくら病院は1983年の開設以来、地域社会に立脚し、生活の安心安全を支える地 域密着型の病院として診療を行ってまいりました。現在では、介護施設である「ホスピコート 長尾」や「アドバンスケア長尾」に加え、ケアプランセンター、訪問看護ステーション、訪問介 護ステーションを併設しており、幅広く地域医療・介護に寄与できる体制を整えています。

落ち着いたかと思えば再拡大を繰り返すコロナ感染が、世を席巻すること2年以上にわ たります。この夏の第7波と言われる感染急拡大の影響で、コロナ診療を行っている当院で は通常の医療との両立を図る為、職員一同懸命に医療活動に取り組んでいるところです。当 院では領域区分など充分なる感染対策の元で、コロナ疑いによる発熱外来診察や中等症 程度の患者治療に対処致しております。

どのような医療環境においても、さくら病院はこれまで通り地域の病院として、福岡大学 病院をはじめとする高次機能病院や地域の開業医の先生方、また、地域の介護施設、訪問 看護、地域包括センターなどと連携し、地域医療・介護に役立つ病院として機能を高め貢献 すべく努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



診療部長 早田 哲郎

新任ごあいさつ

令和4年4月1日よりお世話になっています、早田哲郎 (そうだてつろう)と申します。生まれは長崎県大村市で、高校卒業まで長崎の学校に通っていました。さくら病院とは、前身の江頭病院時代より大学医局からの派遣勤務をきっかけとして30年以上お付き合いさせて頂いており、今回、晴れて正式に入職させて頂くことになった次第です。専門は肝臓病で、福岡大学病院では肝臓病のチーフとして長く勤務した後、福岡赤十字病院の肝臓内科部長を6年間務めさせて頂きました。今までの経験を活かしながら、さくら病院でも頑張りたいと思います。

趣味の面では、学生時代からバンドでドラムを叩いていますし、スノーボード、ウインドサーフィン、ウエイクボード、ランニング、キャンプ、山登りなどスポーツ系のものも多く、皆さんとご一緒できる機会があればと思っています。どうかよろしくお願いします。

医師 竹内 亮

初めまして、もうすぐ還暦の竹内亮です。自宅には妻と(そばに来ると暑い)猫がいます。 今年1月よりさくら病院緩和ケア担当として、病棟・外来・訪問診療を微力ながら担当しています。

以前は他院で救急の外科を担っていました。今では緩和ケアの年数が長くなっています。 その中でたくさんの生と死を目の当たりにしてきました。どの人たちも自分らしく精一杯生き ようとしていました。今からもそのお手伝いができればうれしいです。

緩和ケアの本質の一つが「寄り添うこと」だと思っています。そばに寄り添って癒すことではないかと思っています。「治すこと時々、和らげることしばしば、癒すことはいつでも」近代外科の父といわれるアンブロワズ・バレの言葉(ちょっと改変しています)。

また、さくらユニットのお茶会などで時々そば振る舞いをします。十数年修業した十割そばです。そばにいることと合わせて、そばをご賞味くださいね。

今後ともよろしくお願いします。

医師 武田 由美

3月より着任しております武田由美です。さくら病院では、内科・糖尿病内科・内分泌内科 領域を中心に担当しております。

患者さんとご家族、現場の職員の方々に教えていただきながら、地域に貢献できるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



BLS集合研修

BLSとは、一次救命処置(basic life support: BLS)のことで、呼吸と循環 をサポートする一連の処置であり、胸骨圧迫と人工呼吸による心肺蘇生、 AEDの使用が含まれます。

さくら病院では、全職員を対象にBLS集合研修を実施しています。看護師は

毎年、コメディカルは2年に1回の研修が必要です。その他、新入職者研修、ケアワーカー研修でも行っています。

BLSは専門の器具や薬剤を必要としない救命処置です。医師・看護師など医療従事者でなくても誰もが行う ことができます。病院内外でいつ、誰が傷病者の第一発見者となるか分かりません。そのような場面に遭遇した 時に、さくら病院の職員一人一人が、必要な技術、リーダーシップ、チームワークを学ぶことで、自信をもって救 命処置を行えることを目的として実施しています。

BLS集合研修の内容としては、一次救命処置の基本となる胸骨圧迫と人工呼吸による心肺蘇生、AEDの使い 方について説明を行います。その後、参加者は練習用の人形を使って実施します。また、実際に傷病者を発見し 救急要請を行い、AEDを使用した心肺蘇生を実施するという一連の流れも体験してもらっています。

1時間程度の研修ではありますが、参加者からは「BLSについて振り返ることができた」「BLSの研修を受



けていて実際の現場で役に立った」などの意見が聞かれ ています。

コロナウイルスの流行により、BLS集合研修を行うこと が難しく、ここ2年間はビデオ学習のみとしていましたが、 今年度よりBLS集合研修を再開することとなりました。

今後も、BLS集合研修を繰り返し行うことで、急変時に 備え、より実践的な医療の提供に努めていきます。

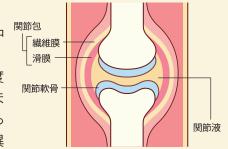
.

膝に溜まる水の正体の話

なぜ膝に水が溜まるのか?

膝関節は関節包という袋に包まれています。関節包に包まれた関節の中 はヌルヌルした少し粘り気のある関節液という液体で満たされています。

膝に溜まる《水》の正体はこの関節液です。関節液は平常時1~3ml程度 で、関節包の内側にある滑膜が関節液の量の調整、入れ替えをしていま す。ところが、繰り返される膝へのストレスや傷んではがれた軟骨のかけら 等の刺激で滑膜が炎症を起こし、コントロールを失った滑膜が関節液を異



常に分泌し、回収もできなくなります。それが「膝に水が溜まった状態」です。正常の10~30倍以上の関節液が 溜まることもあります。

水抜きは炎症を抑えるために必要!!

膝に溜まった水(=関節液)の中には、サイトカインという炎症を引き起こす物質が含まれてい ます。痛みや水が溜まるのを改善するためには炎症を抑える必要があり、サイトカインを含む汚 れた関節液を外に出すために水抜きをします。ですから水抜きを繰り返すと癖になるからしな いのではなく、膝に水が溜まっていると思ったら整形外科を受診しましょう。また水が溜まった 時は炎症・悪化のサインなので、数日間、歩くことや立ち仕事は必要最小限にしましょう。



リハビリテーション科 理学療法士 富永康一郎



消防訓練



1内科病棟

令和4年5月25日に消防訓練を開催しました。1内科での訓練は新型コロナウイルス患者の受け入れのための病棟編成から初めてのことでした。新型コロナウイルス患者の隔離場所内に避難経路があることから、事前に避難経路の変更を検討しました。1内科の病室には全てベランダに通じるドアがありますが、危険防止のために常時施錠をしています。各病室を解錠し、ベランダへの避難経路を確保することで、火元付近を通らず避難できるように避難経路の想定をしていました。

訓練本番では、火元がデイルームの奥であり初期消火から避難開始までの時間や、病棟の構造上死角になる場所からの避難誘導などに時間がかかりました。病室内からベランダへの避難誘導は、一人で歩ける患者さんや付き添いが必要な患者さんには有効に対応できスムーズな避難となりました。足元に段差があるため担架等で介助を要する患者さんには配慮が必要ですが、階段を使用する避難よりは時間短縮になると思われます。





実際の火災では、スプリンクラーの稼働や黒煙への対応など様々な問題が考えられます。患者さんをすぐに避難誘導できるように、消防訓練を通じて瞬時に対応できるようにしていきたいと思います。

部署紹介

事務課

事務課の仕事は、総務・人事・経理・設備管理等々と 多岐にわたります。最近では、働き方改革関連法が順次 施行されて世の中も変化しつつありますが、基本的な 業務は変わりません。誰かが入職すれば社会保険加入 などの手続き、給与計算。退職すれば、退職手続き。そ の方の働きのおかげで収入が生まれ、人事制度に則つ てそれを分配し、仕入をすれば業者さんに適正な金額 をお支払いし、事業計画のもと銀行から借入をして・・・ と。事務職の仕事をしていると点と点が繋がつていって

病院も私たちと同じ生き物のように感じます。

病院や施設は専門職の方で成り立っていて、そんな 専門職の方々と一緒に仕事ができ、そこを自由に行き来 できるところも事務職の魅力のひとつです。ところで、 「一隅を照らす」という言葉をご存じですか。天台宗の開 祖、最澄の言葉で「一人ひとりが自分のいる場所で、自 らが光となり周りを照らしていくことこそ、私たちの本 来の役目であり、それが積み重なることで世の中がつく られる」といった意味があるそうです。事務職とは決し て目立たない存在ですが、そうありたいと思う今日この 頃です。今後とも事務課をよろしくお願いいたします。





皮膚・排泄ケア認定看護師の活動

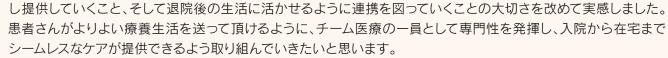
特任師長 皮膚・排泄ケア認定看護師 小深田智子

令和4年3月より皮膚・排泄ケア認定看護師として業務を独立し、院内・院外と組織横断的に活動しています。皮膚・排泄ケア認定看護師とは、皮膚・排泄ケア領域(創傷や褥瘡・人工肛門及び人工膀胱のケア・尿便失禁のケアなど)の専門性に特化した看護師です。

院内では、フットケア専門外来を始め、定期的に病棟ラウンドを行い、専門領域の患者さんのケアを行っています。また、褥瘡管理者として、毎週褥瘡回診を多職種チームで行い、褥瘡発生予防と褥瘡保有者の褥瘡ケアに努めています。当院は高齢患者さんが多く、何らかの皮膚トラブルを抱えた方や、皮膚障害発生リスクが高い方がほとんどで、取り組みの必要性を実感しています。

院外では、関連の訪問看護ステーションと連携し、専門領域の患者さんの ご自宅や施設へ訪問看護師と同行訪問を行っています。在宅や施設は、そ の方々の生活にあった可能なケアを提供していく必要があり、訪問看護師 と協働してケアを行っています。

院内外の活動を通して、入院中より退院後の生活を見据えたケアを検討







緩和ケア認定看護師の活動 /

緩和ケア認定看護師 高村知美

こんにちは。私は、さくらユニットに所属し緩和ケアを専門的に行っている看護師です。緩和ケアとは、がんや重い病気を抱える患者さんやそのご家族、一人一人の身体や心の様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアです。認定看護師活動において私が大切にしていることは、患者さんやご家族との対話です。対話を通して考えや思い、価値観を知ることは、その人らしく過ごすことを支援するための第一歩だと考えています。

緩和ケア認定看護師の具体的な活動として以下の3つがあります。

宝 践

患者さんやご家族の苦痛が緩和するよう、医師や看護師、薬剤師や管理栄養士、医療ソーシャルワーカーや臨床心理士と連携しチームでケアを行っています。

指導

緩和ケアに関する研修や 講義を院内外の医療従事 者や看護学生に行ってい ます。

相談

看護師が直面する問題や 疑問の相談にのり、改善策 を導き出せるようサポート しています。

今年度より、相談活動の一環として、在宅療養中のがん患者さんのご自宅へ訪問看護師と一緒に伺う同行訪問を始めました。患者さんの苦痛症状が緩和し安楽に自宅で療養できるよう、訪問看護師と一緒によりよい方法を考えケアを行います。また、患者さんだけではなく、在宅療養を支えるご家族のつらさや困りごとに対してもお気持ちを聞きながら一緒に考え支援をします。

この活動を始めて、自分の住み慣れた環境で穏やかに過ごす患者さんの素敵な笑顔に触れ、在宅療養の大切さを 改めて実感しています。患者さんが一日でも長く、自宅で安心して療養できるよう、訪問診療の先生方や訪問看護師 の方たちと連携し、支援を行います。よろしくお願いします。



こんにちは!

地域医療連携室です。

どうぞお気軽にご相談ください。

地域医療連携室(医療介護相談室)では、患者さん・ ご家族からの様々なご相談を承っています。

例えば、当院への入院のご相談・退院後の生活に 対する不安・介護サービス等社会資源のご紹介・経済的な 問題についてなど、一緒に考えさせていただいています。

また、患者さんへ適切な医療が提供できるよう、 地域の診療所や病院・施設・在宅サービス事業所等 との連携に努めています。

どうぞお気軽にお声かけください。

地域医療連携室

J TEL 092-864-1245

FAX 092-864-1213

受 付 平 日 8:30~17:00

土曜日 8:30~12:30

室 長 吉瀬 副室長 松山

医療ソーシャルワーカー 足立·橋迫·水元

谷川



1.1

外 来 診 察 表

_							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	第 1 診察室	家村 優子 内科/神経内科	小柳 尚子 内科/循環器内科	武田 由美内科/糖尿病内科	早田 哲郎 内科/肝臓内科	江頭 省吾 内科/循環器内科	河野 徳子 内科/呼吸器内科
午	第2 診察室	小田 晋也 内科/循環器内科	江頭 啓介	江頭 芳樹 総合内科	岩﨑 敬雄 リハビリテーション科	江頭 啓介 総合内科	江頭 啓介
	第3 診察室	江頭 省吾 內科/循環器內科	早田 哲郎 内科/肝臓内科	秋満 俊介 内科/循環器内科	江頭 啓介総合内科	王寺 恒治 内科/消化器内科	東 大樹/大城 彩香 糖尿病内科
前	第5 診察室	吉田 芽 健診/ドック	村上修二 内科/心療内科	天野 角哉 内科/消化器内科	中野 修治 健診/ドック	田邉 桃香 内科/緩和ケア内科	早田 哲郎 内科/肝臓内科
	第6 診察室	楠原 浩之 内科/消化器内科	吉田 芽 健診/ドック	吉田芽健診/ドック	池内 伸光 呼吸器内科	吉田芽健診/ドック	吉田 芽 健診/ドック
	第 1 診察室	天野 角哉 内科/消化器内科	江頭 芳樹	王寺 恒治 内科/消化器内科	村上 祐一 内科/消化器内科	武田 由美内科/糖尿病内科	
午	第2 診察室	家村優子 神経内科	武田 由美内科/糖尿病内科	米良 英和 神経内科	江頭 啓介 総合内科	小田 晋也 内科/循環器内科	
	第3 診察室	秋満 俊介 内科/循環器内科	河野 博之 内科/循環器内科	楠原 浩之 内科/消化器内科	江頭 省吾 内科/循環器内科	秋満 俊介 内科/循環器内科	
後	第5 診察室	田邉 桃香 内科/緩和ケア内科	小柳 尚子	村上 修二 内科/心療内科	中野 修治 健診/ドック	中園 智美	
	第6 診察室	河野 徳子 内科/呼吸器内科	吉田 芽 健診/ドック	磯部 泰司 腫瘍血液内科	竹内 亮 内科/緩和ケア内科		

病院までの交通アクセス ■地下鉄七隈線/福大前下車1番出口より徒歩10分 ■都市高速/堤ランプより車で3分 ■車/天神より約30分(本館地下駐車場、本館東側に第2駐車場があります。) ■バス/西鉄バス〈さくら病院前バス停下車〉の場合 ■天神方面より:協和ビル前のりば片江(営)行・・・・・・13番 ■西鉄大橋駅より:・・・・・・・・外環700番 西鉄バス〈西片江一丁目バス停下車〉の場合 ■天神方面より:警固神社・三越前のりば片江(営)行・・・・114番 協和ビル前のりば片江(営)行・・・・・12・140番 ■西新・飯倉方面(脇山口)より: · · · · · · · · · · · · 95番 ■博多駅方面より:博多駅前のりば片江(営)行・・・・・・16番 博多バスターミナル片江(営)行・12・114番 ■桧原・片江方面より: ……6・12・16・95・114・140番

医療法人社団 江頭会 さくら病院

医療法人社団 江頭会 さくら病院

サービス付き高齢者向け住宅

住宅型有料老人ホーム

在宅医療介護センターさくら 訪問看護ステーションさくらんぼ ホスピコート長尾 アドバンスケア長尾

社会福祉法人 桜花会 ライフケア大手門

社会福祉法人 桜花会 ライフケアしかた

社会福祉法人 桜花会 ライフケア柏原

〒814-0143 福岡市城南区南片江6丁目2-32 TEL092-864-1212 FAX092-865-4570 E-mail:info@sakurahp.or.jp ホームページ:http://www.sakurahp.or.jp/

直通TEL

1内科 092-872-5611 事務所 092-801-7386 2内科 092-872-5612 ユニット 092-872-5615 3内科 092-872-5613